

## TOPICS

## VOL.227

代表・特定社会保険労務士 山口 徹実

社会保険労務士 倉井 舞

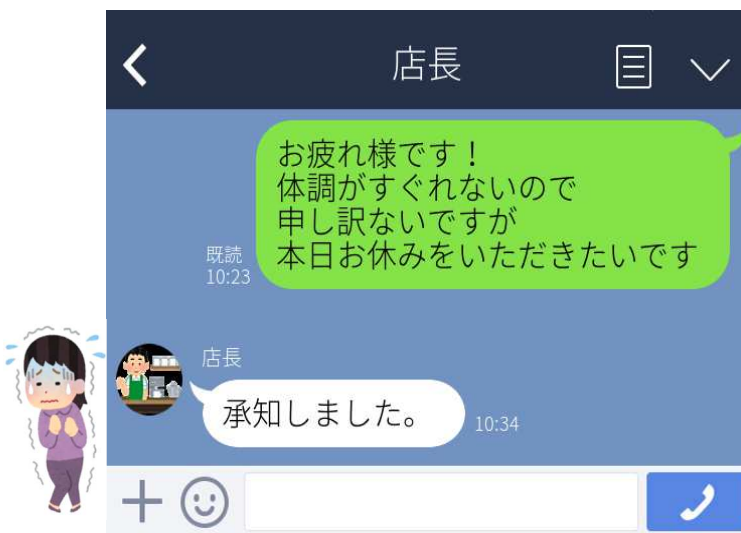
URL <http://co-js.com/> E-mail [info@co-js.com](mailto:info@co-js.com) TEL 028-643-8000 FAX 028-643-8530

## マルハラ（マルハラスメント）

先日最終回を向かえた話題のドラマ「不適切にもほどがある!」。このドラマは、昭和の体育教師が令和の時代にタイムスリップしたという設定で、時代の変化を面白おかしく、時に皮肉っぽく描いていました。今では考えられない昭和のパワハラ・セクハラシーンと、ハラスメントに縛られた令和の対比が印象的でした。

現在はパワハラ・セクハラが強く規制されていますが、それに加えマタハラ・モラハラ・カスハラ...様々なハラスメントが言われるようになってきました。中には「こんなハラスメントまで!？」と驚くものも誕生しています。今回は数あるハラスメントの中から「マルハラ（マルハラスメント）」を紹介します。

## 1. マルハラ（マルハラスメント）とは



LINEなど交流サイトで中高年から送信される「承知しました。」など文末に句点がつくことに対し、若者が恐怖心を抱くというもの。若者は文末にある句点が威圧的に感じ、「(相手が)怒っているのではないか」と解釈してしまう傾向にあるという。専門家は、メールに長く親んできた中高年とSNSを駆使する若者との間をめぐり、SNS利用に対する認識の違いが影響していると指摘する。

若者はリアルタイムでのやりとりが当たり前となっており、チャットのようなやり取りを行う。短めの文章で句読点を打つタイミングで送信するため、句点を使用する機会が少ない。さらに、若者同士の会話では、句点は怒っていることを意味する際にも使用される。そのため、若者は普段あまり見かけない文末の句点に怒っているのではないかと怖さや威圧的に感じているのではと指摘されている。

(参考：産経新聞令和6年2月10日朝刊)

## 2. 気遣いの違い

中高年は要件があるときのみメッセージを送るため、文章が長文になることが多い。読みやすくするために改行をしたり、文章の最後に句点を付けたりする。相手がいつ読むかわからないので、誤解を生まないように絵文字や顔文字をつける。すべてガラケーメール時代から続く相手への気遣いの現れといえる。

一方、若者世代はチャットのようにやり取りをしているため、基本的に絵文字や顔文字も使わない。中高年が見ると「誤解されてしまうのでは」と心配になるくらいそっけない文章だが、効率を求める若者にはこちらが好まれる。

若者世代も「！」「-（長音記号）」などは使うことがあるが、絵文字はあまり親しくない相手や年上世代とやり取りするときに使う程度。相手を待たせないことが彼らにとっての気遣いである。



## 3. マルハラへの対応

異世代とやり取りすると違和感を感じる人が多いが、あくまで世代ごとにコミュニケーションの形が異なるだけのこと。どちらが正しい、間違っているということはないし、合わせなければならぬわけでもない。

ただし、年長者とやり取りすることでそもそも若者世代は萎縮したり、威圧感を感じたりしやすい状況にあることを念頭に入れることは、歩み寄るきっかけになるはずである。

(参考：東洋経済ONLINE ビジネスコラム 2024/2/20)

先述のドラマに、「期待して、期待に応えてさ、叱られて励まされて頑張っ、そうやって関わり合っ、強くなるのが人間じゃねえの!？」と主人公が叫ぶシーンがありました。思わず大きく頷いてしまいました。

現在はハラスメントに対する規制がされ、また意識も高まった結果、労働者が理不尽な事から守られるという点では良い社会になりました。しかし行き過ぎて何から何までハラスメントと言われるようになってしまいました。ハラスメントになるのが怖くて指導にブレーキをかけざるを得ない上司、そのため十分に成長できない労働者。実際は労使ともに息苦しい状況なのではないでしょうか。

ハラスメントには気をつけなければいけませんが必要以上に怖がることなく、会話の中でお互いが培ってきた感覚の摺り合わせをし、寛容な姿勢でいることが重要なのかもしれません。

以上（作成：倉井舞）